

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270300965		
法人名	医療法人 青仁会		
事業所名	グループホーム 南寿の里「丘の家」		
所在地	青森県八戸市大字田面木字赤坂25番地2		
自己評価作成日	平成28年6月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>近隣の保育園、地域のボランティア、町内会との交流を通じて、利用者様、職員が刺激を受け、また、与えられると同時に、ホームに居ながら住み慣れた地域での社会性の維持に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	モットーに基づいた事業計画・目標を立て、職員間で話し合い、実践している。モットーは職員室やフロア内に掲示し、申し送り時に確認を行い、共有、意識付けを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々へホーム内行事に参加していただけるよう、事前に社会福祉協議会を通して募集し、継続した参加を呼びかけている。また、町内会の催しに職員が参加することで、地域の方々、広域に取り組みを理解していただけるよう、努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア団体主体の催しに招待していただいた際に、介護予防体操等の介護教室を行っている。また、運営推進会議にて、認知症の理解や支援の方法等、地域に向けた啓発活動も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や近隣保育園、ご家族様、行政、ボランティア団体等、毎回多くの方にご出席いただき、頂戴したご意見に関しては、運営や活動に反映させるように努めている。また、地域での取り組みについて教えていただいたり、認知症についての啓発活動を行っている。また、出席されている方の要望にお応えし、ボランティアへの参加方法の説明を行っている。会議を通して、地域の方々にボランティアで行事に参加していただく等、地域交流に結び付いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、市の担当者へは随時、制度についての確認事項や報告等を行っている。空床時は、地域包括支援センターに入居対象となる入居者様の紹介を相談依頼した。対応困難事例の入居者様の場合、サブセンターに報告・相談し、入居者様が地域に根ざした老後を円滑に過ごせるように、情報共有と連携に努めた。また、御意見箱からの意見を活用し、直通電話を設置して、利便性向上に努めた。市のグループホーム協議会で懇談会に参加し、要望や意見交換を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実施事例がないが、勉強会を開催し、内容は全職員が把握している。万が一、身体拘束が必要な場合に備えて、法人内での身体拘束を行う際の同意書や規定を準備している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待を未然に防ぐために、昨年は、ほぼ全職員対象に外部研修に参加している他、施設や法人内でも勉強会を開催し、全職員で虐待防止を意識できるよう、資質向上に努めている。また、事業所内に高齢者虐待防止のポスターを掲示し、職員のみならず、外部のご家族様や関係者の方が虐待に関しての発言がしやすい、風通しの良い施設づくりを目指した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内・施設内で権利擁護やその事業、成年後見制度についての勉強会を開催し、職員の理解・知識を深めている。管理者も外部研修に参加して内容を職員に伝達し、職員間で、権利擁護に関する知識からの対応スキルを培えるようにしている。実際に、後見制度を利用されている方やそのご家族様への支援を行ったり、今後、利用を検討している方や必要とされる方がいらっしゃれば、その場に応じて助言を行っている。その際、同法人内の認知症疾患センターの精神保健福祉士や社会福祉協議会等の他機関の職種に相談し、新たな情報収集に努めつつ、連携・支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	苦情や要望を受け付ける御意見箱を設置し、苦情対応職員を設けている。法人内接遇委員会で年2回、ご家族様へ満足度アンケートを実施し、苦情等の集計を行い、対応している。普段から施設職員に対して要望や苦情を話し、相談して良かったと満足感や安心感を得られるよう、毎日の申し送りを活用し、入居者様やご家族様の意見の情報共有と対応を話し合っている。また、表情等から入居者様の不満や要望等を感じ取れるよう、普段より心がけて業務に当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望を受け付ける御意見箱を設置し、苦情受付職員も設けている。法人内接遇委員会で年2回、ご家族様へ満足度アンケートを実施し、苦情等の集計を行い、対応している。日常的に聞かれたご家族様や入居者様の意向については、申し送りの際等に職員間で話し合い、解消している。また、表情等から入居者様の不満等を感じ取れるよう、普段より心がけて業務に当たっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を交え、週1回、スタッフミーティングを行い、意見や提案を確認している。現場の意見をまとめ、毎週月曜日に開催される管理運営会議にて執行管理者に意見を伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、管理者と職員で面接を行って目標設定を行い、啓蒙活動について話し合っている。異動の希望があった場合は、上司に報告する体制を整えている。また、年2回の職員健診の実施により、健康管理の支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から研修案内があった際は案内を掲示し、お知らせしている。職員から希望があれば、研修の受講について上司に報告し、受講させている。また、定期的に法人内の研修も開催されており、自己啓発のために参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加盟しており、研修や忘年会等に参加して交流を図り、サービスの質の向上のために、意見交換や必要な知識、情報の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、直接、本人様やご家族様にお会いして、状態や要望、抱えている不安等を確認し、ケアプランに活用できるよう、インテークを取っている。その際、医療機関や担当ケアマネ等と連携して、なるべく多くの情報を収集できるようにしており、入居後の変化に対応して、安定した生活ができるように努めている。ケアプランを入居初日に初回プランとして作成し、入居1週間後に2回目のプラン作成という体制にして、初期段階に安心が確保され、入居者様とご家族様との信頼関係が築きやすいようにしている。待機時は、定期的な電話連絡や必要に応じて訪問を行い、待機者の方が入居に至らなくても、安心して地域に根ざした生活ができるよう、他サービスの利用状況の確認をして、その際に他機関と連携を図り、入居となった際に、円滑にサービス提供ができるような体制を作っている。また、他サービス利用することで入居者様やご家族様の思いをより活用できる可能性がある場合は、紹介をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様とお会いし、抱えている問題や意向・希望等を伺っている。入居後の生活に何が必要か、事前に話し合っている。本人様やご家族様の状況を把握し、可能な限り柔軟な対応ができるように心がけ、本人様、ご家族様の相談に繋げられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、入居者様本人の希望・要望を聞き、実行できるよう、職員間で検討を行い、可能な限りニーズに応えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の遊びや月一回のお料理クラブでの調理の工夫等で職員へやり方を教えて下さる等、良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状態変化を見逃さず、少しの変化でもご家族様へ連絡を取り、報告を行っている。ご家族様と協力して、本人様の病状回復へと密な関係を築いている。面会時には、最近の出来事をお伝えするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事では入居者様の馴染みの場所への計画をしたり、昔の友人や親戚の面会も積極的に受け入れている。また、昔の写真や思い出の品を本人様の居室に置き、いつでも見られるように工夫している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介入が必要な方には円滑に交流ができるように援助し、一人ひとりが孤立せずに、入居者様同士が支え合えるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、退去時の入居者様の状態に応じて、今後、再入居の可能性がある場合や、本人様やご家族様が入居を希望する場合等、必要に応じて、ご家族様や関係機関との情報交換、支援を行っている。また、グループホームでの入居継続が厳しい場合は、新たなサービス機関の紹介をしつつ、ご家族様が対応に苦慮しないよう、他機関との連携に努めた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、十分に把握できない場合は、ご家族様や関係者から情報収集を行い、意向の把握をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や各関係機関から、本人様の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通じて、入居者様の心身状態、認知症状等、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティングや毎日の申し送りを活用し、入居者様の受け持ちの担当職員以外からの情報、また、本人様、ご家族様からの情報、主治医からの治療方針等を踏まえて、より良いニーズを収集し、多角的な視点から課題の抽出をして、介護計画(ケアプラン)に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過録記載は1日の過ごし方や困り事、役割、身体、精神面の観察やケアプランの実践・結果、課題の把握、地域活動での様子等を記入し、職員間で情報共有しながら、自立した生活を営めるような介護計画を立案している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会等にて日常生活や心身の状況を報告し、意向や希望を聞き取りながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園や社会福祉協議会、他ボランティア団体を受け入れ、お料理クラブやホーム内行事、外出行事での地域との交流を重視して、住み慣れた地域での生活を支えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様や入居者様本人より事前に確認し、入居前からのかかりつけ医や、希望時には同法人の医療機関を受診していただいている。通院時の同行はご家族様へ協力を仰ぎ、受診の際は「情報提供用紙」を活用して、医療機関と入居者様の最新の状態の伝達、共有を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員を兼務にて配置しており、定期的に入居者様の状態把握や体調管理を行っている。定期受診前後や状態の変化時は密に連絡を取り、指示や助言を仰いでいる。その際、看護師が兼務でも業務が円滑にできるよう、電話連絡以外に、法人内のメール報告を各職員が対応できている。また、緊急時には24時間連絡がとれる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が受診毎に情報提供用紙を作成し、入院時には介護サマリーを作成・提供している。入院中、必要時には職員が面会し、主治医・ご家族様・他医療連携関係職員等と早期退院に向けた話し合いを実施している。また、入院中の医療機関と協力し、退院に向けてご家族様が不安感を持たないように、退院前にご家族様の思いや不安を解消できるように面談し、対応している。また、主治医から退院に向けての説明時、できるだけご家族様にも参加していただけるようお声がけをし、安心した施設生活ができるように努めている。また、必要時はケアプランを更新している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医師と連携し、状態変化に応じた対応、受診時の情報をご家族様に提供している。受診時にはご家族様に現在の状態をこまめに説明し、重度化する可能性が予測される場合は、密に連携を取れるように努めている。入居契約時、グループホームで可能なケアやサービスについて、入居前に、ご家族様に重度化の指針を含む説明をし、同意をいただいている。重度化・終末期にグループホーム内では困難なケア・サービスをご家族様や入居者様が希望する場合は、他施設や医療機関への連絡調整を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル(毎年見直し)を作成し、応急手当や初期対応について、定期的実践するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人防災委員会や防火管理者が主体となり、年2回、夜間・日中想定避難訓練を実施し、全職員が対応について学ぶ機会を設けている。また、近隣施設への協力依頼等、災害対策をとっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの個人情報を把握し、それぞれの希望に沿った介護を行い、また、介助の際の声かけや対応等、プライバシーを損なわない声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分の希望や思いを伝えられる環境作りを行っており、意思表示を十分に行えない方に対しては、表情や行動からその入居者様が何を望んでいるかを読み取り、選択肢を提示して、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の意思を尊重して、その人の希望に合わせたペースで支援をし、住み慣れた環境で、その人らしい生活ができるように援助している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの希望を尊重し、気温や状態に合わせてさり気なくサポートし、身だしなみを整え、好みの格好ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた食材を提供したり、献立を考え、衛生面や安全面を配慮しており、入居者様の好みを聞き、馴染みの味や楽しみを引き出せるように工夫している。また、入居者様と職員と一緒に取り組めるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状態を把握し、それぞれの食事量や水分量を観察している。職員間では、脱水についての勉強会を実施し、脱水症状や夏場の健康管理について情報提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各食後の口腔ケアを実施している他、個々の状態に合わせて職員が支援している。定期的に職員が物品の点検をして、清潔を保つようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時のトイレ誘導や声がけだけではなく、その方の頻度やパターンを把握して行い、排泄の失敗やおむつの使用を減少する。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタル表に排便状況と水分摂取量を記入する欄を設け、毎日観察している。水分を十分に摂っていたるように、その方の希望や嚥下状態に合わせて飲み物を提供している。また、適度な運動も行えるよう、散歩や体操も無理のない範囲で促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日時はこちらで決めず、入居者様の希望に合わせて調整している。入浴時間も制限せず、入りたい分、入っていただいている。その方の状態に合わせて、身体に負担がかからないように、入浴時間をみて、体調確認の声をかけて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ぐっすり眠れるように、日中、レクリエーションや体操、家事活動等をして、適度に身体を動かすことを促している。また、寝間着がある方は着替えていただくことで、就床時間であることを印象付け、リラックスして休んでいただけるように支援している。照明や物音にも十分に配慮し、安心して休んでいただける環境作りも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの医師からの薬剤情報に目を通し、申し送りやスタッフミーティングの際に、注意すべき内容の周知徹底を図っている。また、薬剤の情報で不明な点は、薬剤師・主治医・外来看護師に伺い、解決している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動(食器拭き、布巾畳み、洗濯干し、お料理)、パズルや文字の練習等の頭を使う事、園芸、体操、歌等の身体を使う事等、日々、楽しみや気分転換ができるように支援している。また、個々の生活歴を把握し、経過録やご家族様からの情報を基に、一人ひとりの得意分野を把握し、役割を発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人様の状態や気分に合わせて、施設周辺の散歩に行かされている。気軽に出かけられるよう、希望に沿った支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当グループホームでは金銭管理は行っていないため、行事や床屋等、金銭を使用する際は、その都度、ご家族様へ連絡し、必要な額をご持参いただいている。支払いが可能な方は本人様の手で行い、お金を使うという社会性を維持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望時には他者様に迷惑がかからない時間帯であれば自由にかかけられ、また、プライバシー保護のため、職員室内でご使用いただいている。手紙や年賀状は自筆でお出しできるよう支援し、自署できない方は職員が代筆の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には入居者様が作成された季節の工作や飾り付けをし、ご家族様が来訪された時に楽しんでいただいている。また、食堂の他に、ソファや畳のスペースをセッティングすることで、好きな場所で過ごすことができる空間を設けている。また、季節毎に室内温度や湿度に気を配り、ホーム内3箇所に温・湿計を設置し、日々、こまめにチェックして、入居者様の体調管理に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にテレビを新たに設置し、ソファで寛いで見ることができるように工夫している。食堂に通じるアルコーブにもソファを設置し、休みたい時や、入居者様同士で話をしたい時等のためにセッティングしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは施設の備え付けであるが、寝具やタンス、テーブル、椅子等は入居者様の馴染みの物を個々に準備していただいている。好きなジャンルの本や写真等を持ち込んでいただき、配置も入居者様やご家族様と一緒にを行い、居心地良く過ごすことができる空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様の残存機能や適応能力に応じて、居室の場所を配慮している。また、廊下左右に手すりを付け、歩行がスムーズに行えるように配慮している。施設物品の高さや配置についても、必要物品は自力で取り出しが行える配置にするように努めている。		